

# お茶の育て方

京都府では、宇治茶をテーマにお茶生産の美しい景観維持やお茶産業の振興、お茶文化の発信などを行う「お茶の京都」を進めており、お茶に触れていただける機会を広げています。今回、御家庭で上手にお茶を育てるコツを紹介します。

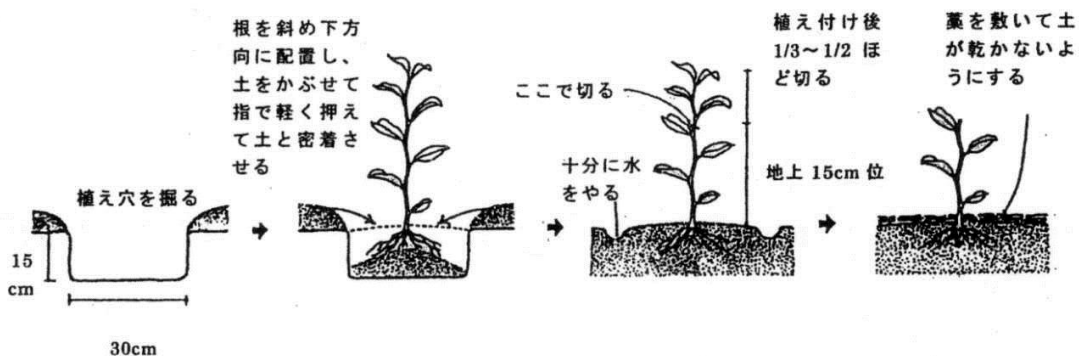
## 植え付け前の準備

お茶は軟らかく、水はけがよい、酸性の土を好みます、植え付け時期は気象条件が穏やかな3月下旬～4月上旬が最も適しているため、この時期までにピートモスなどの有機物を混ぜ、深く耕し（できれば60cm以上）、土づくりを行っておきます。苗木は通信販売などを利用して準備しておいてください。

なお、土を購入される場合は、野菜・花の園芸用土ではなく、酸性に調整されているブルーベリー用のものを選びます。

## 苗木の植え付け

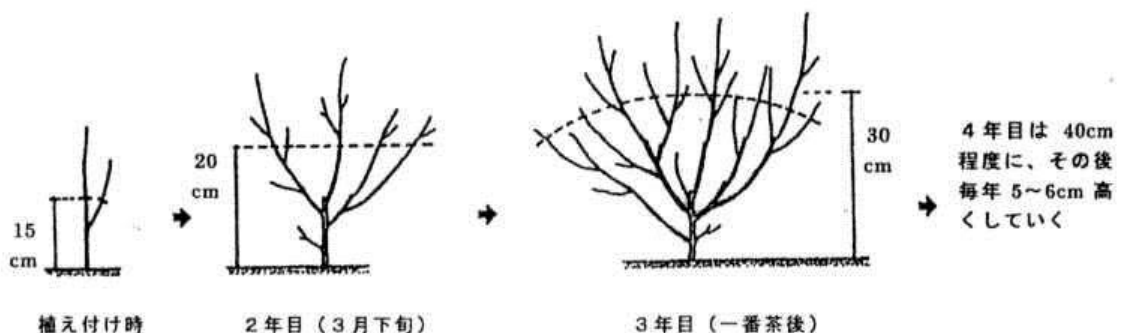
植え付けは、深さ15cm程度の植え穴を掘り、根が折れ曲がらず、自然に広がるように苗木を置き、土をかぶせて行います。植え付け後は、葉からの水分の蒸発を抑えるため、地上15cm程度の高さで枝を切り、水を十分かん水します。また、根元にはわら等を敷いて、土が乾かないようにしてください。鉢植えする場合は、大きめの鉢に植え、夏場は土が乾かないように水やりをしてください。



## 整枝（剪定）

春に苗木を植え付けた場合、2週間ほどで新芽が出始め、5月には一芽に4～5枚の葉が開きます。早く茶摘みをしたいところですが、元気に育てるため、苗を植えてから数年は茶摘みをしないようにします。

植え付け2年目からは、下図のように枝を切り揃えます。3月末～4月初め切り揃えると、4月下旬に新芽が出始め、夏頃には立派な枝に生長します。切り揃える高さ



は2年目が地上20cm、3年目が同30cm、4年目が同40cmを目安にします。植え付け後4～5年は、このように春に整枝し、その後は新芽を摘まずに秋まで伸ばし続け、翌春にまた整枝します。

### 茶摘み

植え付け後、4～5年経つと茶摘みができます。4月になると前年の葉の付け根にある芽が萌芽し、新芽の葉が4～5枚になった頃、摘み取ります。摘み取りは、爪を立てるとその部分が変色するので、親指と人差し指で新芽の茎を挟み、折るようにして行います。収穫した新芽は、ホットプレートなどで製茶してください。

### 茶摘み後の管理

お茶の樹形には、枝を高く伸ばす自然仕立て（手摘み）とかまぼこ型に刈り揃える弧状仕立て（はさみ摘み）があります。どちらも同じように茶摘みができますが、自然仕立ての方が手軽に管理を行えます。自然仕立てでは5月に茶摘みが終わった時期に50cm位の高さで枝を切り落とし、あとは翌年の春まで伸ばし続けます。

### 害虫駆除と肥料

お茶の害虫の多くは、新芽を加害します。新芽が伸びる時期は特に注意してください。害虫には、葉を三角に巻く虫、数枚の葉を綴り合わせる虫、葉を食害する虫、葉の裏側につく小さな赤いダニなどがいます。葉を食べる青虫、虫が潜り込んだ被害葉などを見つけたら、取り除いてください。

なお、チャドクガ（右写真）は、毒針毛が激しい痛みや痒みなど皮膚炎の原因になります。この毒針毛は非常に細かく、風下にいるだけで被害に遭うことがあります。チャドクガを見つけたら、絶対に手で触れずに、殺虫剤も毒針毛をまき散らす原因になるので使用を避け、ビニール袋や専用の駆除スプレーを用いて駆除してください。



肥料は下図のように茶の横の雨落ち部に溝を掘り、9月頃と3月頃に油粕等の窒素成分を含む肥料を土と混ぜて施し、土をかぶせます。臭いが気になる場合は化成肥料を施します。肥料のやりすぎは、根を傷める原因になるので注意してください。

